

サイドバイサイド

なにかを壊してしまおう



【みんなですすめよう男女共同参画】

「デートDV」って知っている？

ドメスティック・バイオレンス(DV)は、配偶者や恋人など親密な関係にある者同士に存在する暴力ですが、10代、20代の若い恋人同士の間で起こる暴力のことを「デートDV」とよび、深刻な社会問題になっています。

■ どうして起こるの？

大切なはずの相手を「自分だけのもの」と思い込みすぎたり、**思い通りに支配**しようとしたとき、それは暴力へと変わります。

■ DV(暴力)のサイクル(暴力のあとはやさしくなる)

いったん、支配する側、される側の関係が成り立ってしまうと、**暴力はくり返されます。**

- 【イライラ期】⇒ きげんが悪くなり、暴力のきざしがあらわれる
- 【バクハツ期】⇒ ひどい暴力をふるう
- 【ラブラブ期】⇒ あやまったり、ふだんよりやさしくしてくる

暴力をともなう交際は、お互いの愛情を育てるものではありません。

「お互いを認め合う、対等な関係」「大切なのは、自分らしさ」でも、暴力の問題を二人だけで解決するのはとても難しいし、危険な場合もあります。

ひとりで悩まないで、専門の窓口にご相談してみましょう。秘密は必ず守られます。

With Youさいたま相談室

☎048-600-3800 月～土曜日 午前10時～午後8時30分

松伏町女性相談・育児相談

☎048-991-1825 月曜日 午前9時30分～午後0時30分

水・土曜日 午後1時～4時

人権 それは 愛

問合せ／教育文化振興課 ☎ 990-9011
企画財政課 ☎ 991-1815

災害と人権～普段からのつながり～

東日本大震災から4年が経過しましたが、この間にも日本列島は多くの災害に見舞われました。記憶に新しいところでは、昨年8月に広島市で豪雨による土砂災害が発生するなど、災害による犠牲者が後を絶ちません。

しかし、昨年11月に、長野県北部で発生した長野県神城断層地震では、幸いにも命を落とされた方が1人もいませんでした。震源に近い白馬村では、家屋の倒壊などにより自宅に取り残された人を、懐中電灯の明かりを頼りに近所の住民たちが救助しました。また、建設会社のフォークリフトで屋根を持ち上げたり、消防団のチェーンソーで柱を切断したりして救出しました。まさに住民同士の深いつながり『絆』があったからです。

災害が起きたとき、高齢者や障がい者、病人や負傷者、子どもなど、いわゆる「災害時要援護者」と呼ばれる人々を助けることができるのは、普段からその近くにいる人、同じ地域に暮らす人たちです。お互いの人権を意識したつながりが、災害のときに重要な意味を持ってきます。

災害に直面したとき、まずは自分や家族のことを考え、周りを気にかける余裕を持つことはなかなか難しいと思います。だからこそ、災害時だけではなく普段から相手を思いやる心を持ち、地域とのコミュニケーションをとり、人権を意識して、お互い支えあって行動していくことが大切なのではないでしょうか。